

2022 年度 一般選抜前期日程 小論文（長文理解）
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

沼上幹著『組織戦略の考え方—企業経営の健全性のために』（筑摩書房、2003年）から、労働組合で発生するフリーライダーを論述した部分を引用して、フリーライダーに対する考えを受験生に問いかけた。

人は集団の中で共に活動している。それは、個人では達成できないことも、集団では達成できることがあるからだ。しかし、集団を作ることによって問題が発生することがあり、その一例がフリーライダーである。受験生もこれまでの社会生活の中で、自らがフリーライダーになったり、逆にフリーライダーに直面して悩んだりしたことがあったであろう。

設問1は、フリーライダーの視点から見ると、どのような問題が労働組合に発生するかについての筆者の主張が読み取れているか、また、筆者の主張を字数制限の中で、的確に論述する力を試されている。また、問題文の中で、「労働組合」に脚注が付けられていないため、労働組合の機能をイメージすることができれば、問題文を理解しやすかったのではないかと考えられる。

設問2は、フリーライダーを身近な問題としてとらえる視点と、それを与えられた文字数の範囲内で的確に文章化する力を試されている。問題文は労働組合を事例にしているため、受験生にとって身近な事例とはいえない。しかし、受験生は学校や地域の中でフリーライダーに直面したことがあるだろう。受験生が、日々の生活の中で、集団と個人との関係を意識する機会があれば、身近なフリーライダーの事例を想起することは、さほど難しくなかつたであろう。

設問1と設問2ともに、受験生が日頃から社会問題に関心を持っているかを問われている。受験生には、今後も、フリーライダーだけでなく、社会の中で生活することの意味とそれに伴って発生する問題について考えてほしい。

【解答傾向】

<設問1>

解答は概ね良好であったが、以下の問題点が散見できた。

- ・問題文の要約ではなく、自分の意見を書いている答案、ないしは自分の意見を交えながら書いている答案があった。
- ・筆者の主張ではなく、公共財の特徴など自らの知識を書いている。
- ・筆者の主張を抽出しているが、文章間で意味がうまくつながっていない。
- ・問題文全体から筆者の考えをまとめるのではなく、問題文の一部を使っている。例えば、「フリーライダーの数は、フリーライドする人を見て増加する」という点は比較的書けていたが、「労働組合を組合員のニーズに敏感に反応するよう変革せよ」という意見は、フリーライダーの視点から見ると問題だ」という点は書けていない答案があった。
- ・筆者の主張を正しく読み取れていない（例：組合員は労働組合が提供する必要なサービスだけに組合費を払う）。

<設問2>

設問で論述を求められている「身近に発生しているフリーライダーの事例」として、以下の解答が多かった。

- ・部活動やグループ学習など学校の中で発生したフリーライダー（例：掃除をしない学生がきれいな教室を使用する。試合に優勝した実績を練習に参加しない部員が共有する。文化祭の準備活動に参加しなかった学生が文化祭に参加し楽しむ）。
- ・受験生が生活する地域の中で発生するフリーライダー（例：地域やマンションの清掃活動に参加することなく、きれいな生活環境を享受する）。
- ・インターネットに関する事例（例：ビデオアプリのログインデータの共有）。

また、以下の問題点が散見できた。

- ・フリーライダーの事例とその悪影響を減らす方策を説明する文字数に著しい偏りがある。書き始める前に叙述内容を検討する必要があると感じた。
- ・フリーライダーの悪影響を減らす方法が抽象的だったり（例：フリーライダーに対して相応の罰を与える。費用を負担する人と負担しない人の待遇を変える）、非現実的だったりする（例：校内の掃除をしない学生に教室とトイレを使用させない）。また、その悪影響を減らす方策を「誰が」行うのかといった行為主体にまで指摘できていた答案是少なかつた。
- ・フリーライダーの事例やその悪影響を示しているが、それを取り上げた根拠が示されていない。
- ・フリーライダーの事例として適切なのか疑問を感じる答案があつた（例：広告に騙される人。企業が虚偽の情報を消費者に伝える）。採点者が納得できる事例を示す必要があると思える。
- ・学生の身近に発生している事例とは思えない事例が示されている（例：リモートワークで働く組合員）。

【その他 気づいた点】

- ・誤字が多くみられた
（例：×「共受」→○「享受」、×「待偶」→○「待遇」、×「指的」→○「指摘」、
×「増化」→○「増加」、×「成積」→○「成績」、×「不の連鎖」→○「負の連鎖」など）。
- ・同じ表現法が繰り返される（例：「・・・のだ」の繰り返し）。
- ・文字数に制限があるにもかかわらず、同じ意味の文章が繰り返し書かれている。
- ・主語と述語のねじれ、句読点が少ないまたは全く打たれていない、不適切な接続後の使用、一文が長すぎるなどが散見できた。読みやすい答案の作成を心がけてほしい。
- ・設問を十分に読んでいないためか、設問と解答の内容が違っている。
- ・稚拙な表現（例：お兄ちゃん）は避けたほうが良い。